

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss/>

第182号 会 報 2004年4月15日

目	次
第225回運営委員会報告 1	合同大会期間中の総会開催について 7
第226回運営委員会報告 2	研究助成・学術賞等の募集 7
学会の将来に関するWGからの報告 4	関連研究会のご案内 10
ESP関連報告 5	訃報 10
海外学術交流派遣受領報告 6	学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール . . . 11
松本紘会員英国王立天文協会Associate Award受賞 . 6	SGEPSS Calendar 11
国際学術交流事業のご案内 7	賛助会員リスト 12

第225回運営委員会報告

日時：2003年12月25日13-16時

場所：東京工業大学理学部石川台2号館318号室

出席者：藤井良一、本蔵義守、山崎俊嗣、
小川康雄、中村正人、松岡彩子、小原隆博、
家森俊彦、河野英昭、北和之、臼井英之、
橋本武志、石川尚人、高橋幸弘

欠席：野澤悟徳、山本衛、船木實、村山泰啓

議題：0 . 前回議事録承認

- 1 . シニア会員申請承認
- 2 . アウトリーチ活動報告
- 3 . 将来問題検討WG
- 4 . EPS編集委員長交代

0 . 前回議事録承認

第224回運営委員会議事録（案）を承認した。

1 . シニア会員申請承認

小嶋美都子会員の申請を承認した。

2 . アウトリーチ活動報告（高橋委員）

(1) 講師派遣制度の整備

講師派遣に関して、天文学会との共通するHPを作成する予定である。現在、天文学会と交渉しているが、将来的には惑星科学会とも共有したい。天文学会では、派遣を要請する主催者が直接講師にコンタクトする方式をとっている。講師派遣では交通費のみ支給され、謝金が出ないのが普通らしい。アウトリーチの下に部会を作るが、まず、5-6名を指名して

から公募する。

(2)パンフレットが作成されつつあり、暫定版が紹介された。

3 . 学会将来問題検討WG

SGEPSS評議員会と学会長等懇談会での議論をもとに、学会将来問題検討WGの設置について検討した。

(1)評議員会での議論をふまえて、以下のような検討を行なった。

本蔵主査が評議員会で将来問題WGについて説明したところ、速やかにWGを立ち上げるべきであるとのコメントを得た。また、“WGメンバーが広い年齢層から構成されるべきである”という要請があった。学会将来問題検討WGの立ち上げに関して、準備委員会として運営委員会だけで方針を立て行なう手続きに関しても評議員会が憂慮している。運営委員会を助言する立場にある評議員が重要案件である学会将来問題検討WGに参加できるようにすべきであるという要請があった。

また、学術会議改組等の流動的な時期にありながら、学術戦略（研究行政）のための組織が必要であり、将来問題検討WGがこの任務も担うべきであるとの意見が評議員の中にある。（しかしながら後述のように、学会将来問題検討WGは、学会の将来の問題に限って議論することとする。）

以上のような議論をふまえて、運営委員会では、「学会将来問題検討WG」の位置づけを以下のようにすることとする。学会将来問題検討WGは、学会長の下に置き、メンバーには評議員会からも入っていただく。学問の方向と学会のあり方を検討することを任務とする。研究行政的な学術戦略に関するワーキンググループについては、別の問題として認識し、この設置については別途、会長が検討する。

(2) 学会長等懇談会の議論をふまえて

各学会は、連携が必要と認識しているが、学会の統合には否定的である。研連の再編成に対応して、学会の連携を図るために、連携WGを立ち上げようとしており、本蔵副会長が主査をつとめる。これは連絡会のような役割で、主導的に物事を決めるWGではない。

第19期までの部門別研連が、第20期に課題別研連に再編成される。この外的な力によって、学会の強力な連携や統合が起こりうる。大きなプロジェクトを起こすには、地球惑星科学が1つにまとまって見える組織が必要である。しかしながら関連学会を統合することによって、新しい学会を作ることは現状では困難である。

このような外的な情勢を考慮して、設置期間を今後2年間程度とする。また、WGメンバーは17名とし、各年層から会長が指名することとする。評議員から3名、50歳代から2名、40歳代から5名、30歳代から5名、博士課程・ポスドクから2名を指名する。各メンバーは自らの意見を述べるのみならず、周囲の会員からの声もまとめる責務を負う。各年層からの候補者をリストアップし、運営委員は、候補者にコンタクトをとり、承諾を得る作業を早急に進める。

第1回学会将来問題検討WGは、2004年2・3月を予定する。運営委員が多く参加しているので、運営委員会と同一時期に実施する。日程は後日メールで調整する。第1回学会将来問題検討WGでは、まず、過去のレビュー（合同学会の設立など）を踏まえた議論から始めたい。

なお、他学会との調整に関しては、現在、学会長等懇談会がある。前回の会合には、SGEPSSから本蔵副会長が出席している。本蔵副会長は、連携WGの主査でもある。

4. EPS編集委員長交代

2005年度から本蔵副会長が当学会会長に就任するのに伴い、2004年末にEPS編集委員長から退く。本件に関しては、EPS編集委員会・運営委員会で

の承認はすでに得られている。EPS学会間内規に基づき、これからEPS編集委員長選考委員会が設立されることになる。この委員会は、5学会から推薦された委員（各学会3名）からなり、ここで後任のEPS編集委員長を決定する。

(文責：小川康雄)

第226回運営委員会報告

日時：2004年3月4日9:30-13:30

場所：京都大学宙空電波科学センター

出席者：藤井良一、本蔵義守、山崎俊嗣、小川康雄、中村正人、松岡彩子、山本衛、家森俊彦、船木實、河野英昭、臼井英之、北和之、村山泰啓、石川尚人、高橋幸弘
欠席者：野澤悟徳、小原隆博、橋本武志

議題：1. 前回議事録確認
2. 共催、協賛の確認
3. 入退会承認、シニア会員申請承認
4. 名誉会員推挙
5. 国際学術交流派遣審査
6. 山田財団推薦審査
7. EPS
8. 大会関係
9. 研連報告
10. 男女共同参画学協会連絡会
11. アウトリーチ関係
12. 会報発行計画案、発送物予定
13. その他

1. 前回議事録確認
確認された。
2. 共催、協賛の確認
 - ・日本・東南アジア・環太平洋のインパクトイベントの国際シンポジウム (IEJSAP'03) 後援
 - ・地殻の能動監視に関する国際ワークショップ2004年6月30日～7月2日 協賛
 - ・月シンポジウム「月で拓く新しい宇宙開発の可能性と日本」(主催：宇宙航空研究開発機構、平成16年1月23日) 後援
 - ・第12回衛星設計コンテスト 共同主催 実行委員 高橋幸弘、審査委員山本衛
 - * 実行委員は運営委員会から選び当学会を代表する。審査委員は実行委員が選び、任期は3年である。工学系の大学が中心となっている。当学会の学生も参加すべき。
 - ・第10回大気化学討論会 (主催：大気化学研究会、2004/6/23～25) 協賛

・プラズマ科学シンポジウム2005/第22回プラズマ
プロセッシング研究会(主催:プラズマ・核融合
学会、日本応用物理学会、2005/1/26~28)共催

・第9回衛星帯電技術国際会議(9th Spacecraft
Charging Technology Conference)(主催:JAXA
総合技術研究本部 環境計測技術グループ、
2004/4/4-8 つくばエポカル)協賛

3. 入退会承認、シニア会員申請承認

(1) 入会承認

- ・陰山 聡(海洋科学技術センター)
- ・古賀清一(宇宙航空研究開発機構総合技術研
究本部)

(2) 退会承認

- ・飯島 健(通信総合研究所)
- ・西村香純(京都大学宙空電波科学研究センター)
- ・北村正丞 逝去退会
- ・藤本和彦 逝去退会

(3) シニア会員承認

- ・奥沢隆志
- ・杉浦正久

4. 名誉会員推挙

4名を推薦し、次期総会で決議することとした。

5. 国際学術交流派遣審査

- ・2件承認
加藤雄人(京都大学宙空電波科学研究センター)
梅田隆行(京都大学宙空電波科学研究センター)
- ・IUGG援助金(20万円×5年=100万円)が返還され
るので、これを雑収入として一般会計に繰り込
み、国際学術交流に、現期と次期にわたる3年間
で使い切ることとする。
- ・H16年度の4回の募集日程案が了承された。
4/30、7/15、9/15、2/15
この制度への応募者をもっと増やすため、若手
に周知させる。
- ・招聘については、11月に柿岡で開催されるIAGA地
磁気観測ワークショップで、発展途上国からの
参加者の渡航費が不足するのでサポートが必
要。

6. 山田科学財団推薦審査

2件について、学会から推薦することに決定した。

- (1)羽田亨(九大)
- (2)向井利典(宇宙航空研究開発機構宇宙科学研
究本部)

7. EPS

2003年度分として1000ページ程度の印刷となる
見通し。科研費申請の1300ページに対して、
「軽微な変更」として許される30%の範囲にはお
さまる。質を保ちつつページ数を確保するのが
容易でない。

本蔵編集長が2004年末で辞任するのに伴い、
関係5学会より3名づつの委員からなる編集委
員長選考委員会を組織することとなった。

当学会からは山崎委員が立候補したが、他2名
については、編集委員・EPS運営委員経験者やよ
く投稿する会員の中からノミネートされた候補
者について、山崎委員から打診する。

8. 大会関係

(1) 昨秋学会総括

予稿集を購入する人の割合が年々減少し、大量
に余っている。印刷部数を減らすことおよび合
同大会のシステムを使って電子化することを検
討する。

特別講演会の参加者を増やす努力が必要。特
別講演会は、LOCに任されているので、むしろア
ウトリーチを行なう場であってもよく、今秋の
学会では、その可能性を検討する。

懇親会の参加者数を事前に把握することが困
難である。参加者の予測が難しいのでアトラク
ションを設けるなど魅力的な企画が必要か。

(2) 春の総会

合同学会中の委員会の日程を検討した。

運営委員会：9日10:00-13:30

将来ワーキンググループ：9日18:00-21:00

評議員会：10日18:00-20:00

総会：12日12:20-13:40 201A号室(磁気圏
セッションの直後)、弁当を準備

学会受付を置く。入会受付の他、宣伝等に有効
利用をはかる。費用2万円。

9. 地球電磁気学研究連絡委員会

第19期地球電磁気学研究連絡委員会が2003年10月
1日発足。委員長および幹事はそれぞれ、歌田久
司委員および家森俊彦委員。以下の2つの小委員
会を設置した。

(1)地磁気観測小委員会(委員長:湯元清文)

(2)データ問題検討小委員会

(委員長:家森俊彦)

前者は、前期からの継続するもので、今年度は柿
岡で開催されるIAGA workshopに対応することが
主要な任務となる。後者は、新規に設置されたも

ので、地球観測サミットを含め、国内外のデータベース、データネットワークに関する諸問題に対応する。

10. 男女共同参画学協会連絡会

2004年1月28日14:00-17:00に日本物理学会会議室において開催され、松岡委員、中村委員が出席した。報告事項および審議事項は以下の通りである。

[. 報告事項]

- ・設立1周年記念行事報告集完成し、一部300円で配布。各学会理事には送る。
- ・アンケート解析は項目数が多く、解析作業が遅れている。
- ・現在の文科省予算内の解析は、分野・身分等毎の解析。更に詳しい解析を検討する。
- ・各学会の企画や取り組みあり：応用物理学会、日本物理学会
- ・大学では休まずに研究できる体制へのサポートが必要。大学・研究所併設の保育所を調査予定。

[. 審議事項]

- ・アンケートデータの分析は応用物理学会が中心となり、報告書は3月末に文科省に提出。アンケートに参加した学会は、当該学会員の提出した回答データのみ受けられる。その利用は事前に運営委員会に届け出る必要あり。
- ・関連したメーリングリストのメンバーには必ず事務局を入れる。

SGEPSS内に対応するグループを作ることが提案された。松岡委員、中村委員が対応する。

11. アウトリーチ関係

・アウトリーチ部会設置

コアメンバー11名を決定した。さらに一般会員に公募した上で、4月から正式発足する。パンフレット作成・講師派遣・学校教育（小学校総合学習）・一般講演・マスコミ対応を行なう。学会としてバックアップする予算が必要。特にHPの更新。

・パンフレット作成

パンフレットがほぼ完成した。学会の事業についても示す方がよい。印刷については、今年度は5万円の予算で、委員がそれぞれプリンターから出力する。

・群馬県教育委員会

群馬県教育委員会が企画した平成15年度サイエンス・パートナーシップ・プログラムが好評だったため、同教育委員会から平成16年度も同じ講師と

内容で行って欲しいとの連絡があった。参加者が教師のため休日に行く必要があり、開催地の調整が必要。会長から開催機関へ依頼文書の発送が必要になる可能性がある。

- ・愛知県蒲郡市生命の海科学館がSGEPSS会員による講演のため、予算を要求している。

・高校地学教育WG

資料作成を中井会員（超高層分野）と荻島会員（固体電磁気分野）で作成。高校地学の教員のための資料であるが、内容が高度すぎるきらいがある。地学教育委員会の活動は高校教育指導要領の改訂を目指しており、専門性が高いので運営委員会アウトリーチの範囲を超えている。対応には、専門のグループが必要。

12. 会報発行計画案、発送物予定

- ・次回原稿は3月末締め切りとし、4月中旬発送。
会報（WG発足、運営委員会報告225, 226）パンフレット・総会委任状同封
- ・6月中頃 会報（春総会報告等、秋学会call for papers）
- ・9月初め 秋学会プログラム発送、総会委任状同封
- ・10～11月 会報（秋学会報告等）、名簿同封
- ・12月 役員選挙
- ・2～3月 会報（選挙結果等）

13. その他

- ・MTI研究会におけるSGEPSS学生発表賞に向けての試みがあり、齊藤昭則会員（京大）のレポートが報告された。これは昨秋の富山の学会で試験的に実施したもので、7人の審査員が24件を審査している。学生の励みになるので、今後学会の正式な活動とする方向で前向きに検討したい。

- ・学会賞メダル：不都合が多く、業者を変更したい。

- ・当学会から要望書を提出した南極観測関係予算について、平成16年度予算で南極観測船設計費・ヘリコプター更新が認められた。

（文責：小川康雄）

学会の将来に関するWGからの報告

SGEPSSは今後どのような発展を目指すべきかについて、いろいろな角度から検討するためのWGが設置され、活発な議論が始まりました。ここでは、第1回会議で検討された内容の概略を報告します。

日時：2004年3月4日14:00～17:00

場所：京都大学宙空電波科学センター会議室

出席者：藤井良一（会長）、本蔵義守（主査）、
松本 紘、福西 浩、浜野洋三、岩上直幹、
大村善治、中村正人、山崎俊嗣、北 和之、
高橋幸弘、山本 衛、松岡彩子、市来雅啓、
山本裕二、小笠原桂一

欠席者：歌田久司、小原隆博、橋本武志

現状認識及び今後の進むべき方向について議論を行った。以下では、紙面の関係上、主査の視点で主な論点を列記する。

< 現状認識 >

- ・ 物理、化学、生物などの分野と対抗できる組織が必要である。現在は、外からみて「地学」分野はどこに声をかけたらよいか分からない状態にあり、結果として発言権がなくなっている。
- ・ SGEPSSは過去、周辺分野を取り込むというより、周辺分野を切り捨ててきた。SGEPSS側はそういうつもりはなくても、結果として出ていった側はSGEPSSに対して強い抵抗感を持っている。
- ・ SGEPSSは関係する国際団体が多いという特徴がある。
- ・ 観測技術（衛星）と地球物理との接点はSGEPSSにしかない。
- ・ SGEPSSは、地球内部系は手法で、外部系は領域で他の学会と分かれている。
- ・ 宇宙研、極地研、RASC、STE研などでたくさんのシンポジウムがばらばらで行われている。SGEPSSと一緒にやる等の工夫もされていない。
- ・ 現在の各学会を統合する形での学会連合は不可能である。総論賛成、各論反対でこの10年間何も動かなかった。

< 今後の方向性 >

- ・ 将来の学問分野の発展を見通して学会の組織を考えるべきである。したがって、どのような分野を取り込むのか、そのためにはどのような方策を考えるのかについての整理が必要である。
- ・ 学会間のオーバーラップをなくす必要がある。
- ・ 学会連合は不可能としても、AGU型になぜ持っていけないのか。
- ・ SGEPSSの枠を広げ地球惑星科学全体へ持っていくのは、合同大会運営機構を拡大すれば可能ではないか。運営機構を動かしているのはSGEPSSが中心である。
- ・ 合同大会が発展して学会となり、いつの間にかSGEPSSが消滅するという姿も考えられる。

- ・ 合同大会では新しいものをセッションとして提案できる。しかし、母体となる学会がないと新しい分野を継続的に育てていくことはむずかしく、合同大会だけがあればよいということにはならない。

< SGEPSSの秋の講演会について >

- ・ 合同大会が発展する一方で、秋の講演会の存在意義がすでに薄くなってきている。
- ・ 秋の講演会で魅力あるプログラムを作るには、コンピーナー制度、インバイトする仕組みが必要ではないか。
- ・ 秋の講演会もSGEPSSだけで閉じていてはだめではないか。

以上のような論点を受け、次回には次の2つのテーマについて議論を進めることとした。

- ・ SGEPSSのアイデンティティを保ちつつ周辺分野を取り込むためにはどのような方法、戦略が必要か。
- ・ SGEPSSの秋の講演会をどのように改善すべきか。

（学会の将来に関するWG主査 本蔵義守）

E P S 関連報告

1. 編集長選考委員会の発足について

創刊以来編集長としてEPS誌の発展に御尽力いただいたきた本蔵氏が、今年限りで編集長を退任することになりました。これは、本蔵編集長からEPS誌運営委員会と編集委員会に辞任の申し入れがあったもので、来年度から当学会の会長に就任する予定であることについて、5学会で共同刊行しているEPS誌は各学会からは独立であるべきで、編集長と会長を兼務するのは好ましくないという理由によります。EPS誌運営委員会と編集委員会では、これを了承しました。次期編集長は、EPS誌学会間内規に基づき、各学会3人ずつの委員で組織される編集長選考委員会で選考・決定されます。当学会からは、運営委員会で検討の結果、EPSの編集や運営に経験のある津田敏隆、小野高幸、山崎俊嗣の3名を委員とすることに決まりました。

2. 電子メールによるEPSのコンテンツサービス開始

EPSの出版を行っているテラパブから、EPSが発行されるごとにそのコンテンツを電子メールで配信するサービスが開始されました。申込用のアドレスは、eps-cs@terrapub.co.jpです。

（EPS誌運営委員会委員 山本衛、山崎俊嗣）

海外学術交流派遣受領報告

諸岡倫子
Swedish Institute of Space Physics
(IRF)

このたび国際学術事業の補助金を受け、2004年2月8日から13日までハワイ島・コナで開かれた「Conference on Sun-Earth Connections: Multi-scale Coupling of Sun-Earth Processes」に参加させて頂きました。現在私はスウェーデン国立宇宙物理学研究所(ウプサラ)にて研究生生活を続けておりますが、会議の開催地とヨーロッパ間の旅費は所属先研究所からの支給が困難だった為、本補助金の申請をするに至りました。この様な貴重な機会を与えてくださった学会および関係の方々に、深く御礼申し上げます。Conferenceはその名の通り太陽活動による地球環境への影響を様々な角度から報告する会議で、今回で2回目を数えると伺いました。大きな会議ではありませんが、参加者全員が同じトピックに集中・議論する事ができ、どのセッションでも大変有意義な時間を過ごしました。片道およそ24時間のフライトと、突然のフライトキャンセルやbaggage lossのアクシデントにもめげず、会議に参加する事ができ本当によかったと感じています。

現在私は、CLUSTER衛星のデータを用いて高緯度領域のULF波動とそれに伴う粒子加速現象の研究をしております。オーロラ帯には地球近傍高度数千キロで加速された高エネルギー粒子が地球電離層へと降り込んでいる事は既に古典的な事実ですが、最近の研究では更に高い高度で電磁エネルギーが低周波のAlfven波として地球向きに流れ込んでいる事が認識され、Alfven波による粒子加速現象が重要と考えられてきています。CLUSTER衛星はそのようなAlfven波が観測される中高度のオーロラ帯を観測する軌道を持ち、更に4機の衛星の同時観測によって時間空間変化を特定する事が可能です。私はCLUSTER衛星でULF波動と同じ周期性を持った電子ビームがしばしば観測される事を見だし、Alfven波が粒子加速を引き起こすのに十分なエネルギーを持ち合わせている事、またAlfven波が横幅緯度1°程度の構造を持ち合わせている事などを報告致しました。結果は既にGeophysical Research Letter紙に掲載されていますが、会議ではこの結果と共に更に新たな観測結果を加えて、"ULF wave (E-, B-field disturbances) associated with upward



electron beams at the dayside Plasmasheet boundary region" というタイトルの口頭発表をさせて頂き、発表後はSamson先生、Akasofu先生などにコメントを頂く事ができました。また、高高度で低周波数のAlfven波が電離層で単に反射するだけでなく粒子との相互作用によって減衰するこのような現象の研究は重要であるとのコメントを頂いて今後更にこの研究を続けるにあたって身が引き締まる思いが致しました。数々の講演の中では、substormの周期的性質に関するいくつかの講演があり、活発な議論が繰り広げられていたのが印象的でした。発表の成果だけでなく、会議全体を通して得られたインスピレーションを今後の研究に活かせればと思います。最後にもう一度、このような貴重な機会を与えて下さった方々に感謝をすると同時に、今後もこの制度を利用して多くの若手研究者の方々が海外の学会に参加されることを希望いたします。

松本紘会員 英国王立天文協会 Associate Awardを受賞

松本紘会員に、天文学分野または地球物理学分野で著しく秀れた業績を上げている研究者に贈られる2004年度RAS-Associate (英国王立天文学協会(RAS))が授与されました。

(<http://www.ras.org.uk/html/whatsnew/Awards04.html>)

松本会員の今回の受賞は、宇宙プラズマの非線形波動粒子相互作用に関する研究、宇宙プラズマ計算機シミュレーション研究推進の国際的リーダーシップ、1999年から2002年の間、国際電波科学連合(URSI)会長として発揮した国際的な指導力に対して与えられたものです。

RAS-Associateには毎年、全世界の天文学および地球物理学の分野から英国に在住しない研究者の中

から国際的リーダーシップやその分野での秀でた学術業績を上げた研究者3名ずつがそれぞれ選出されています。過去にSGEPSSからは、西田篤弘会員、河野長会員、上出洋介会員がそれぞれ1990年、1994年、1997年に選ばれています。

国際学術交流事業のご案内

1. 若手派遣

2004年7月1日～2004年12月31日の間に開催される国際研究集会に参加し、論文の発表もしくは議事進行に携わる予定の、35才以下（応募期日において）の会員を対象とします。派遣予定人数は2～3名程度以内です。

2. 海外研究者招聘

2004年7月1日～2004年12月31日の間に開催される、本学会が主催、共催あるいは協賛する研究集会に参加し、論文の発表もしくは議事進行に携わる予定の、外国の関連分野研究者を対象とします。招聘予定人数は1～2名程度以内です。

3. 国際研究集会への補助

本学会が主催または共催するもので、本学会会員の多数の参加が見込まれるもの。年間1件以内。

詳しくは、

<http://130.54.58.249/sgeweb/gakkaihou.html>
をご参照願います。

※切：4月30日（金）必着

申請書提出先：学会事務センター気付、SGEPSS運営委員会

ご不明な点は運営委員会総務まで。

平成16年度の派遣および招聘（上記1、2）の募集は、今回以外に7/15、9/15、2/15※切の4回を予定しています（審査の都合により※切日を変更する場合があります。HP等でご確認下さい）。

合同大会期間中の 総会開催について

第115回総会を下記の日時に開催します（合同大会4日目昼）。

開催日時：5月12日（水）12:20～13:40

会場：幕張メッセ国際会議場201A

学会賞授与および、名誉会員推挙などの重要な議事がございますので、是非ご出席願います。やむをえ

ずご欠席される方は、同封の委任状を会長宛に郵送いただくか、お近くの運営委員まで提出願います。

お弁当をご用意しますのでご利用下さい（先着100名、飲み物付き1000円の予定）。

研究助成・学術賞等の募集

東レ科学技術研究助成 （平成16年度）

- * 会長※切 平成16年9月13日（月）必着
（運営委員会で推薦候補者決定）
- * 対象：独創的・萌芽的研究を行なっている若手研究者（原則として推薦時45才以下）
- * 助成金：一件3千万円以下10件程度、総額1億3千万円
- * 推薦数：1学協会より2件以内
- * 候補者推薦要領と推薦書用紙は平成16年6月中旬以降ホームページからダウンロード可の予定
<http://www.toray.co.jp/tsf/index.html>）
- * 連絡先
（財）東レ科学振興会
〒279-8555 浦安市美浜1-8-1
Tel 047-350-6103, Fax 047-350-6082
- * 参考までに、当学会（sgepss）会員は、過去5年以内では平成15年度 小嶋浩嗣会員が受賞。

東レ科学技術賞（平成16年度）

- * 会長※切 平成16年9月13日（月）必着
（評議員会で推薦候補者決定）
- * 対象：学術上の顕著な業績・重要な発見・発明、技術上の重要問題解決など
- * 賞：賞状、金メダル、賞金500万円、2件前後
- * 推薦数：1学協会より2件以内
- * 候補者推薦要領と推薦書用紙は平成16年6月中旬以降ホームページからダウンロード可の予定
（<http://www.toray.co.jp/tsf/index.html>）
- * 連絡先
（財）東レ科学振興会
〒279-8555 浦安市美浜1-8-1
Tel 047-350-6103, Fax 047-350-6082
- * 参考までに、当学会（sgepss）会員は、過去5年以内では平成12年度 西田篤弘会員が受賞。

平成16年度宇宙科学研究 助成候補者募集 (国際研究集会参加費支援)

(財)宇宙科学振興会(理事長 武井俊文)では、下記の参加希望者を募集します。関心のある方は募集要項・申請書の詳細を以下の財団ホームページでご覧頂くか、財団あてにご請求・お申し込み下さい。

1. 助成対象:

宇宙理学(地上観測を除く)及び宇宙工学(宇宙航空工学を含む)に関する独創的・先駆的な研究活動を行う若手研究者(昭和44年4月2日以降生まれの者に限る)で、国際研究集会で論文発表が原則として確定している者。但し論文発表採択が未確定の場合でも申請できますが論文発表が条件となります。なお、大学・研究機関等所属長の承諾を得て応募して下さい。

2. 援助金額: 1採択当たり約15~20万円

3. 申込受付時期:

随時受け付けますが、次の締切りに間に合うようお願いいたします。なお、申し込みの詳細については下記ホームページをご覧ください。

7月1日以降出発者については5月15日

11月1日以降出発者については9月15日

3月1日以降6月末迄の出発者については1月15日

4. 採択件数: 年間10~15件程度

5. 照会先: (財)宇宙科学振興会事務局

Tel: 042-751-1126

〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1

URL: <http://www.spss.or.jp/>

E-mai: zaidan@spss.or.jp

小惑星表面採集試料の初期分析参加 研究者の第2回コンペティションに ついて

2004年1月

宇宙航空研究開発機構(JAXA)

宇宙科学研究本部(ISAS)

はやぶさサンプル分析検討委員会

委員長

久城育夫

宇宙・惑星物質分析研究者各位

宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部(JAXA/ISAS)では、日本初の固体惑星探査ミッションであり、世界初の小惑星「サンプルリター

ン」に挑戦する工学試験宇宙機「はやぶさ(MUSES-C)」を、昨年5月にM-V型ロケットにより成功裏に打ち上げました。現在順調に電気推進エンジンを連続運用しながら、本年5月の地球スイングバイに向けて惑星間空間を飛行中です。

探査機は2005年夏に大きさ600mx300mほどでS型スペクトルに分類される近地球型小惑星(25143) Itokawaにランデブーし、全球観測した後、総重量数g程度の表面物質の微小破片粒子(注1)を2007年夏に地球へ持ち帰る予定です。採集場所が明らかでかつ地球環境と反応していない他の天体表面の物質を地上の研究室にもたらすサンプルリターンミッションは、アポロおよびルナ計画以来約30年ぶりであり、国内外の注目を集めています。

このミッションの科学的成果を最大限に挙げるには、回収試料の初期分析とその後の詳細分析に供するための試料の管理・配分作業が、いかにシステムティックかつ正確に実施できるかにかかっています。そこでJAXA/ISASでは国内の各種分析手法の専門家にご協力頂き、はやぶさサンプル分析検討委員会を発足させ、初期分析、及び管理・配分作業の方針・実施方法などについて過去数年間、議論を深めてまいりました。

その結果、JAXA/ISASの研究者および国際協力協定を結んでいる米国およびオーストラリアの代表研究者とチーム(HASPET(Hayabusa Asteroidal Sample Preliminary Examination Team)、旧名称「MASPET」)を組んで、試料の初期分析を行っていた研究グループを広く日本全国に呼びかけることになりました。1999年に第一回コンペティションを公募したところ、全国から11グループのご応募を頂きました。下記の要領に沿って国内外の研究者による二段階ピアレビューを実施し、2001年には6チームが当時の時点で初期分析チームに適切な高い分析技術を持っていると認定されました。詳細については、2003年にJAXA/ISASが発行した「ISAS Report SP No.16: The First Open Competition for the MUSES-C Asteroidal Sample Preliminary Examination Team」をご参照下さい(注2)。

その後探査機が無事打ちあがり、第一回実施から3年以上が経過して微量分析技術のさらなる進歩や優秀な若手研究者も登場しつつあるこの時期に、第二回コンペティションを開催することに致しました。今回の参加資格には、前回参加の有無や評価結果は関係ございません。全国の分析研究者のご協力を賜わり、世界初の小惑星サンプルリターン探査から最大限の科学的成果を引き出したいと考えております。ぜひ皆様の積極的なご応募をお願い致します。

なお、ここでいう「初期分析」とは、試料回収後1年以内に国際的に公募が出される詳細分析に先ん

じて、採集試料全体の物性、化学的、岩石・鉱物学的特徴に関して基本的な記載を行い、詳細分析の応募に際して世界中の研究者が参考できるデータベースを作成することを目的としています。HASPETメンバーの最終審査は、第一回、第二回コンペティションの結果、はやぶさ探査機による小惑星でのその場計測で得られた知見、その他の参考情報から総合的に判断されます。チーム編成の発表は2006年初旬に行われ、日本全国で約10グループを選抜する予定です。2006年度にはHASPET全体で、あらゆる採集試料の条件を考慮した分析手順や手法を模擬するための初期分析リハーサルを実施します。その結果次第では、HASPETメンバーの再調整を行うこともありえます。

今回の本審査も前回同様、書類審査および未知の試料の分析結果について行います。分析試料は、公平を期すために、予め準備されたものをJAXA/ISASから配布致します。分析審査は、(1)分析結果およびその精度、(2)必要最小重量（特に破壊分析の場合）、(3)分析に要する期間等の観点から行われます。審査試料の配布は書類審査後、2004年8～9月の間ご希望日を予定しています。なお、試料を受領してから分析結果のレポートを提出して頂くまでの分析期間は、最長6ヶ月とします。

募集締切：2004年5月31日

応募書類郵送先、および問い合わせ先：

宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部・
固体惑星科学研究系（担当：矢野創 宛）
〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1
Tel: 042-759-8197 Fax: 042-759-8457
E-mail: yano.hajime@jaxa.jp

< 応募資格 >

- (1) 2007年夏のはやぶさ試料回収の時点で、国内に活動基盤を持つ日本人研究者個人の単独、あるいは本人が研究責任者となるグループであって、応募提案通りかそれ以上のレベルの分析を実行できる見込みのある方。
- (2) 試料回収以前にも、ミッションのスケジュールに沿って、JAXA/ISASが主催する初期分析のリハーサルなどに積極的にご協力頂ける方。

< 提出書類（フォーマットは自由） >

- * 分析課題
- * 応募者（研究責任者）、共同研究者全員の略歴、研究業績
- * 実施する分析手法の解説
- * 使用する分析施設（今回の公募では、応募者の所属機関の分析装置を用いること）
- * 期待される分析結果と精度
- * 破壊・非破壊分析の区別
- * 分析必要最小重量（審査の前提は総重量 100mg未満）

満）

- * 分析に必要な期間（6ヶ月未満）
- * 希望する分析開始時期（2004年4～5月の間で指定してください。）
- * 試料の受領方法（郵送、またはJAXA/ISASにて受け取りのいずれかを明記。）

< 注意事項 >

（注1）目標天体・地球近傍小惑星Itokawaに関する情報、ミッションプロファイル、サンプラーの試料採集性能のデータなどの詳細については、以下のURLをご参照下さい。

* JAXA/ISASホームページ：

<http://www.isas.jaxa.jp>

* JAXA/ISASはやぶさ公式ページ：

<http://www.isas.jaxa.jp/j/enterp/missions/muses-c/index.shtml>

* MUSES-Cホームページ：

<http://www.muses-c.isas.ac.jp/Japanese/index.html>

* はやぶさ勝手に応援ページ：

http://www.as-exploration.com/muses_sp/muses.html

（注2）第一回コンペに関するレポート（ISAS Report SP-16, Eds. I. Kushiro, A. Fujiwara and H. Yano (2003)）を希望者に無料にてお配りします。希望者は矢野（上記問い合わせ先参照）までお申し込み下さい。

（注3）分析グループ内に海外の研究者を国内に呼び寄せるか（＝論文は日本のアドレスから出す）どうかは、研究責任者の判断におまかせします。

（注4）国内の複数の研究グループが1つのグループとして申請することも可能です。

（注5）前回コンペに応募しなかった方でも、今回の公募に再応募できます。

（注6）前回コンペの評価結果は、今回の評価には関係ございません。

（注7）HASPETメンバーとなられても、その後の詳細分析の国際公募には応募できます。

< ご参考： 審査・活動の流れ（予定） >

応募書類締め切り：	2004年5月31日
（はやぶさ探査機、地球スイングバイ	6月頃）
第1次審査終了（審査用試料配布対象の決定）：	
	7月31日
審査用試料の配布期間：	8～9月
試料配布終了：	9月30日
試料分析期間：自己申告制（サンプル配布後	
	最大6ヶ月以内）
分析レポート提出最終締め切り：	2005年3月31日
（はやぶさ探査機、小惑星到着	6月頃）
第2次審査レビュー終了：	9月30日
評価委員会結論、分析検討委員会承認、	
審査結果通達：	10月中

(はやぶさ探査機、試料採集 10月頃)
(はやぶさ探査機、小惑星出発 11月)
HASPETメンバー最終編成発表(補充を含む):
2006年1-2月
HASPET初期分析リハーサル:
2006年度いっぱいを目処
(はやぶさ回収カプセル、地球帰還 2007年6月)
HASPET初期分析開始: 6月

関連研究会のご案内

第10回大気化学討論会のおしらせ

下記の要領で第10回大気化学討論会が開催されます。本討論会は、対流圏・成層圏を中心とする大気化学および関連する諸分野の研究者が集い、最新の研究成果の発表を行うと共に、意見交換や今後の研究計画を話し合うことを目的としています。ふるってご参加ください。

主催：大気化学研究会

協賛：地球電磁気・地球惑星圏学会、日本化学会、日本気象学会、日本地球化学会、日本エアロソール学会、大気環境学会

会期：2004年6月23日(水)～25日(金)

会場：東京大学先端科学技術センター
(〒153-8904 目黒区駒場4-6-1)

講演会場：4号館2F講堂
ポスター会場：3号館中2階

<http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/map/map-j.html>

討論主題：地球大気対流圏および成層圏の化学・輸送過程

講演申込締切：2004年5月14日(金)必着

講演申込方法：次の要領で発表申込および講演要旨を作成し、電子メールにて送付願います。

申込：1) 講演題目、2) 申込者氏名と連絡先(TEL、FAX、E-mail)、3) 発表形式(口頭、ポスター)

要旨：A4サイズ1枚(マージン上下30mm、左右25mm)に、講演題目、発表者氏名(講演者に印)、所属、要旨をご記入下さい。尚、要旨はWord、PDF、Textファイル形式で作成して下さい。また、特殊文字の使用はなるべく避けて下さい。

参加登録：参加をご希望の方は、電子メールで次の内容をご連絡下さい。1) 参加者氏名、2) 所属(TEL、FAX、E-mail)

参加登録締切：当日まで受付

参加登録料(講演要旨集代を含む)：
一般2,000円、学生1,000円

懇親会：6月24日(木)18:00より。
一般3,000円、学生2,000円程度

申込先：東京大学先端科学技術センター近藤豊研究室
室内 第10回大気化学討論会事務局
E-mail: meeting@atmos.rcast.u-tokyo.ac.jp
Tel: 03-5452-5146 Fax: 03-5452-5148
詳細：<http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/stelab/www1/div1/taikiken/> 参照

第11回プラズマエレクトロニクス・サマースクール

主催：応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会(本学会は協賛)

日時：2004年8月1日(日)から3日(火)

場所：名古屋市民御岳休暇村
〒397-0201 長野県木曾郡王滝村3159番25
Tel: 0264-48-2111 Fax: 0264-48-2874

参加締切：7月12日(月)

詳細は、<http://annex.jsap.or.jp/plasma/>にて。

プラズマ科学シンポジウム2005/ 第22回プラズマプロセッシング研究会 合同会議の御案内

開催日：2005年1月26-28日

会場：ウイールあいち(愛知県女性総合センター)
(名古屋市東区)

主催：プラズマ・核融合学会他。本学会は共催。

問い合わせ先：jspf@nifs.ac.jp

ホームページ：<http://jspf.nifs.ac.jp/PSS2005/>

第9回衛星帯電技術国際会議 (9th Spacecraft Charging Technology Conference)

主催：JAXA総合技術研究本部環境計測技術グループ

会期：2005年4月4～8日

会場：エポカルつくば(つくば国際会議場)

詳細は以下のURLをご参照下さい。

<http://www.ista.jaxa.jp/info/event/9thSCTC.html>

訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします。

藤本和彦会員 2004年1月5日ご逝去 享年65才

北村正亟会員 2004年1月14日ご逝去 享年79才

学会賞・国際交流事業関係 年間スケジュール

積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦 / 問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月末日
田中館賞	会長	8月末日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦作業委員長	1月31日
国際学術交流若手派遣	学会事務センター	平成16年度は4月30日、 7月15日、9月15日、 平成17年2月15日
国際学術交流外国人招聘	学会事務センター	若手派遣と同じ

SGEPSS Calendar

- [2004年]
- 4月25-30日 : 1st EGU meeting Nice, FRANCE
- 5月9-13日 : 地球惑星科学関連学会2004年合同大会 (幕張メッセ国際会議場) 千葉県
- 5月17-21日 : Joint AGU-Canadian Geophysical Union (CGU) meeting Montrial, CANADA
- 6月1-4日 : 2004年環境電磁工学国際シンポジウム 宮城県
- 7月5日-9日 : The First Asia-Oceania Geophysics Society Meeting SINGAPORE
- 8月1-6日 : SPARC (Stratospheric Processes And their Role in Climate) 3rd General Assembly Victoria, CANADA
- 8月16-20日 : Western Pacific Geophysics Meeting Honolulu, Hawaii, U.S.A.
- 8月18-25日 : 35th COSPAR Scientific Assembly Paris, FRANCE
- 8月24-27日 : 2004 Asia-Pacific Radio Science Conference (AP-RASC'04) Qingdao, CHINA
- 9月5-9日 : IV International Workshop on magnetic, electric and electromagnetic methods in seismology and volcanology (MEEMSV) La Londe les Maures, FRANCE
- 9月26-29日 : 第116回SGEPSSW総会・講演会 (愛媛大学工学部) 愛媛県
- 10月18-23日 : 17th induction workshop Hyderabad, INDIA
- 11月9-17日 : 第11回IAGA workshop on geomagnetic observatory instruments data acquisition and processing 茨城県
- [2005年]
- 7月18-29日 : IAGA General Assembly Toulouse, FRANCE

地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)

会長 藤井 良一 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学太陽地球環境研究所
TEL: 052-789-4309 FAX: 052-789-4311 e-mail: rfujii@stelab.nagoya-u.ac.jp

総務 山崎 俊嗣 〒305-8567 つくば市東1-1-1 中央第7
産業技術総合研究所 地質調査総合センター 海洋資源環境研究部門
TEL: 029-861-2414 FAX: 029-861-3589 e-mail: toshi-yamazaki@aist.go.jp

広報 村山 泰啓 (会報担当) 〒184-8795 東京都小金井市貫井北町4-2-1
情報通信研究機構 電磁波計測部門 北極域国際共同研究グループ
TEL: 042-327-6685 FAX: 042-327-6678 e-mail: murayama@nict.go.jp

運営委員会 〒113-8622 東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21 学会事務センター気付
TEL: 03-5814-5810 会員業務 (入退会、住所変更等、会費、会誌)
TEL: 03-5814-5801 学会業務 (庶務、窓口、渉外)
FAX: 03-5814-5820

賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

エコー計測器（株）

〒182-0025
東京都調布市多摩川2-3-2
tel. 0424-81-1311
fax. 0424-81-1314
URL <http://www.clock.co.jp/>

（有）テラテクニカ

〒206-0812
東京都稲城市矢野口 3266-1
ランド式番館
tel. 042-379-2131
fax. 042-370-7100

（有）オプティマ

〒134-0083
東京都江戸川区中葛西5-32-8
tel. 03-5667-3051
fax. 03-5667-3050
URL <http://www.optimacorp.co.jp/>

（株）夏原技研

〒532-0012
大阪市淀川区木川東 3-6-20
第五丸善ビル
tel. 06-6390-8418
fax. 06-6390-8436

クローバテック（株）

〒180-0006
東京都武蔵野市中町3-1-5
tel. 0422-37-2477
fax. 0422-37-2478

NEC東芝スペースシステム(株)

〒224-8555
横浜市都筑区池辺町4035
tel. 045-938-8230
ext: 8-399-2590
fax. 045-938-8324
ext: 8-399-2559

国際電子工業（株）

〒164-0014
東京都中野区南台5-34-10
tel. 03-3384-4411
fax. 0426-61-8533
URL <http://homepage2.nifty.com/kokusaidenshi/index.html>

富士通（株）宇宙システム部

〒261-8588
千葉市美浜区中瀬 1-9-3
富士通システムラボラトリ
tel. 043-299-3247
fax. 043-299-3012
URL <http://jp.fujitsu.com/>

（有）テラ学術図書出版

〒158-0083
東京都世田谷区奥沢 5-27-19
三青自由ヶ丘ハイム2003
tel. 03-3718-7500
fax. 03-3718-4406
URL <http://www.terrapub.co.jp/>

丸文（株）営業本部航空宇宙部 計測機器課

〒103-8577
東京都中央区日本橋大伝馬町 8-1
tel. 03-3639-9821
fax. 03-3661-7473
URL <http://www.marubun.co.jp/>